



認定成年後見人養成研修入門編（第2回）修了者から参加された感想をご寄稿いただきました。連載企画「クローバー登録者の横のつながり・地域活動について」は栃木県からのご報告です。また、新体制となったクローバー運営委員会の新委員長から皆さまへのメッセージをご紹介します。

## 認定成年後見人養成研修「入門編」(第2回)に参加して

新田 怜小／静岡県支部

私は精神科病院に7年勤務し、現在は相談支援事業所で相談支援専門員として働き3年になります。計画相談支援をしていた利用者に対し成年後見制度の利用を勧め、本人申立の手続きをお手伝いした経験から、精神保健福祉士の行うかわりと、成年後見人の行う身上保護の違い、さらに、精神保健福祉士が行う成年後見人とはどういったものかということが気になり受講に至りました。

事前視聴の講義はソーシャルワークと成年後見の関係、法律行為に関する事項等、濃密な内容で非常に勉強になりました。正直、難しくて分からない部分もありましたが、演習で皆さんと語らうなかで、最初から完璧でなくて良い、話せる仲間がいて「クローバー」のバックアップを受け相談しながらやっていけるという安心感が得られました。

成年後見制度を巡っては、本人主体・意思決定のあり方等活発な議論がされており、それが選挙権の回復、意思決定支援の活用につながる等、変革期を迎えている印象があります。議論内容は私たち精神保健福祉士が大事にする部分であり、私たちが積極的にこの議論に参画していくことが制度改善の一助になると思います。そのためには成年後見制度を理解し、精神保健福祉士が成年後見活動にもかかわる実績を増やしていく必要があります。私も成年後見制度に関心を持つ精神保健福祉士として協力していきたいと思えます。受任以外にもできることはあると思えます。成年後見制度に興味がある、疑問を感じたことがあるという方に「入門編」の受講はお勧めです。一緒に語らい学んでいけたら嬉しく思います。

連載

## クローバー登録者の横のつながり・地域活動について 第5回 ～栃木県の取組みについて～

野口 悦紀／栃木県支部

2020年8月当時、県内のクローバー登録者は3人・受任件数なしという状況から始めた一般社団法人栃木県精神保健福祉士協会（以下「県協会」）の取組みを報告いたします。

### 1. 県協会内のクローバー登録者のネットワーク化と受任依頼活動

まず、クローバー登録者と登録を目指す県協会員の3人で協会内のネットワーク作りをはじめました。3人の取組みは協会内部で認められ、後見人活動の事業となりました。次に、県協会の成年後見に関する事業活動を知ってもらうため、クローバー運営委員会と連携して家庭裁判所（以下「家裁」）・専門職団体や行政を訪問し受任依頼を受けますと発信しました。精神保健福祉士が受任することの理解を得られたものの、訪問だけでは受任依頼に結びつきませんでした。

### 2. 家庭裁判所（家裁）への訪問から

訪問してわかったことは、家裁は成年後見制度の利用が必要な方がいた場合、家裁に知られていない団体・人材に後見人等の推薦を依頼できないということでした。後見人等の研修修了者が認定成年後見人として登録し活動している、精神保健福祉士としての専門性と質の担保に努めているとアピールしましたが受け入れられませんでした。家裁にとって受任経験もなく、受任可能な登録者が少ない専門職団体に推薦を依頼するのは難しかったのでしょうか。とはいえ、受任依頼できる団体を広げたい家裁の思いも感じられました。私たちに「体制整備と実績がないため、三士会と同じような推薦依頼は難しい」と繰り返されていた投げかけは、裏を返せば「まずは体制整備と受任実績を作ってほしい」というメッセージだと受けとめました。家裁訪問は、私たちが成年後見活動に取り組む姿勢があることを知っていただく機会にもなりました。

### 3. 「体制整備」と「実績作り」へ

活動から1年を経過して出した結論です。精神保健福祉士が成年後見人等になるためには、身近な紹介や依頼を待つだけでなく、地域の活動に県協会員自身が主体的に取り組み、自分たちの活動を知ってもらわなければ受任の機会はつくれません。「天は自ら助けるものを助く」の言葉どおり、自分たちの活動を見直し続けなければ何も始まりません。私たちはクローバー運営委員会と話し合いながら、家裁からのメッセージ「体制整備」と「実績作り」に絞って活動することにしました。

次号では、昨年度から取り組んできた内容、そして今後の取り組みについてご紹介いたします。

# 定成年後見人ネットワーク「クローバー」

## ◆登録・受任相談・受任件数

(2022年11月30日現在)

## クローバー運営委員のご紹介 その21

委員長 浅沼 尚子さん

都道府県	登録者数	受任相談 累計	2022年度 相談件数	相談件数の内訳			2022年度 受任件数	2022年度 受任不可・ 取下数
				家裁からの 依頼	中核機関等 の依頼	登録者経由 の依頼		
北海道	6	6	0	0	0	0	0	0
青森県	1	4	2	0	1	1	2	0
岩手県	2	2	0	0	0	0	0	0
宮城県	5	8	0	0	0	0	0	0
秋田県	1	3	1	1	0	0	1	0
山形県	2	12	2	2	0	0	1	1
福島県	3	3	0	0	0	0	0	0
茨城県	0	0	0	0	0	0	0	0
栃木県	5	3	3	0	0	3	2	1
群馬県	1	0	0	0	0	0	0	0
埼玉県	16	26	2	2	0	0	0	2
千葉県	8	6	2	2	0	0	1	1
東京都	45	157	15	5	10	0	8	7
神奈川県	16	33	0	0	0	0	0	0
新潟県	2	1	1	1	0	0	1	0
富山県	0	0	0	0	0	0	0	0
石川県	0	0	0	0	0	0	0	0
福井県	0	0	0	0	0	0	0	0
山梨県	3	5	0	0	0	0	0	0
長野県	3	1	0	0	0	0	0	0
岐阜県	3	3	0	0	0	0	0	0
静岡県	9	15	5	3	2	0	2	3
愛知県	12	12	2	0	2	0	1	1
三重県	0	0	0	0	0	0	0	0
滋賀県	1	0	0	0	0	0	0	0
京都府	3	0	0	0	0	0	0	0
大阪府	6	18	2	0	0	2	2	0
兵庫県	9	0	0	0	0	0	0	0
奈良県	0	0	0	0	0	0	0	0
和歌山県	3	0	0	0	0	0	0	0
鳥取県	1	4	1	0	1	0	1	0
島根県	0	1	0	0	0	0	0	0
岡山県	3	1	1	1	0	0	0	1
広島県	3	5	1	1	0	0	0	1
山口県	2	0	0	0	0	0	0	0
徳島県	2	0	0	0	0	0	0	0
香川県	0	0	0	0	0	0	0	0
愛媛県	5	3	0	0	0	0	0	0
高知県	2	0	0	0	0	0	0	0
福岡県	23	69	3	3	0	0	2	1
佐賀県	1	0	0	0	0	0	0	0
長崎県	4	7	1	1	0	0	0	1
熊本県	7	80	3	3	0	0	0	3
大分県	2	0	0	0	0	0	0	0
宮崎県	1	6	2	2	0	0	2	0
鹿児島県	2	4	0	0	0	0	0	0
沖縄県	9	18	2	2	0	0	1	1
例外対応	0	2	0	0	0	0	0	0
合計	232	518	51	29	16	6	27	24



この度、クローバー運営委員長を拝命しました浅沼尚子と申します。これまで諸先輩方が大事に育ててこられた「クローバー」のバトンを受け継ぎそのバトンの重さを日々実感しているところです。

他の専門職と比べ、精神保健福祉士の後見活動は知られていません。社会的に知られていないだけではなく、同じ精神保健福祉士の間でも知らない人が多いと思います。登録者の皆様のなかには、自分の活動する地域に相談できる人がいないと悩みを感じている方もいらっしゃるかもしれません。

これからの数年は、「クローバー」が、都道府県(場合によってはブロック)ごとに活動できる仕組みづくりを行う過渡期と考えています。自分の活動する地域には登録者が少なく、それが弱点と思われるかもしれませんが、しかし、「クローバー」の正式名称を見直すと「認定成年後見人ネットワーク」という絶妙な名称がついているのです。

ネットワーク、繋がりは無尽です。時を超え、地域を越え、所属を超えて分かちあえるのです。この過渡期においてこそ、「クローバー」という全国に広がるネットワークが機能している強みを最大限に活用したいと思います。ネットワークの力を活かし、地域の活動を活性化させていく、クローバーの活動は後見業務だけではない、ソーシャルワーク実践です。精神障害者の暮らしを大切にする、皆様の想いが、ムーブメントになるよう尽力します。

どうぞご理解、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

※「2022年度受任不可・取下げ件数」とは、候補者不在または依頼先からの取下げのあった件数です。

## ◆活動状況

(2022年9月1日～2022年11月30日)

- 10/6 2022年度第3回東京クローバー登録者の集い(Zoom)
- 10/18 厚木市権利擁護支援センターあゆさぼ 訪問(浅沼尚子/クローバー運営員会、大谷正昭氏/神奈川県精神保健福祉士協会副会長)
- 10/22 2022年度第3回神奈川県クローバー登録者の集い(Zoom)
- 11/14 佐賀家庭裁判所訪問(今村浩司、安部裕一/クローバー運営委員、三根知起氏/佐賀県精神保健福祉士協会会長)
- 11/30 大阪地域ヒアリング(Zoom)

## 編集後記

この記念すべき「50号」まで様々な登録者のバトンをつなぐことで、連載が続いています。ひとえにみなさんのご協力あってのクローバーNEWSであると実感しています。併せて、最近のクローバーの動きとしては、受任依頼が多くなっています。クローバーが始まって、「5」つながりの「500件」を超えています。(他団体に比べればですが…)クローバーが少しずつ広がっているのではないのでしょうか。

(岡田 晶大)